第44弾

「YA 芸術まつり」開幕・・・・・・？！

M&F「・・・『YA 芸術まつり』??」
T「急に思い浮かんだので、つい・・・ということで、今回のテーマは『芸術』です」
M「・・・そうね～芸術って、けっこう多彩なのよね。図書館で『芸術』に分類されてるものを考えてみるとさ～絵、写真・・・手品とか」
F「・・・そうですね。音楽、スポーツ、茶道・・・ゲームもありますよね」
T「宝石、陶芸、工作っぽいもの・・・折り紙もあります!」

M「そうそう。幅広いのよ～気になるものはあった？」
T「・・・絵、です。綺麗な作品をみるのが好きです」
F「へぇ～美術館に行ったりすると、ポストカードみたいなのがあったりするじゃないですか。ああいうのもいいですよね」
M「あら、F さん。けっこう美術館とか行くの？」
F「そうですね～行くってなると、わりとガッツリ回ってます」
M「絵ねぇ～なんだっけ、なんか水墨画を題材にした小説があったような・・・僕は線を書く、だっけ？」
F「いや!『線は、僕を描く』!!・・・僕は線を書く、だと、だいぶ水墨画とイメージが合わなくなってしまいます!」
T「・・・どんな話なんですか？」
M「そうそう、『線は、僕を描く』ね!事故で両親を亡くした少年が、たまたま水墨画のすごい先生にスカウトされて、弟子になっちゃって・・・って進んでいくのよ～『線は、僕を描く』を読んでから、水墨画があると、ちょっと気になるようになったのよね～」

F「今度、映画化されるみたいですよ」
T「そういう出会いかたもあるんですね・・・!」
M「音楽もいいよね～クラシックも好きなの」
F「オリンピックもいいですよね。選手の思いとか、知ると応援したくなったり」
T「勉強になります・・・!」
M「あらそう？じゃあ、もっと・・・手品の話でもする？」
F「クラシックの話を掘り下げていきますか・・・!」
T「ま、また、ゆっくり聞かせてください・・・!!」

←QR コードでもアクセスできます

インスタグラム公開中　ここにアクセスしてね★
https://www.instagram.com/hondarake55

Volume.51
YA通信

ホンダラケ

2022. 8.1

広い、広い、芸術の世界。

芸術は爆発だ～！
ということで、今回のテーマは「芸術」です♪

『よろこびの歌』

宮下奈都／著　実業之日本社　2012 年刊

F/ミヤ

音大の附属高校への受験に失敗した、御木元玲。音楽家の母をもち、合格できると思い込んでいた彼女は大きなショックを受け、音楽から離れてしまいます。しかし、校内の合唱コンクールをきっかけに、玲はもう一度、音楽と向き合うことになり・・・・・・
音楽、歌が少女たちをつないでいく物語です。青春に悩み、迷う登場人物たちを描きながらストーリーが進んでいきます。彼女たちの心情に、みなさんも共感する部分が見つかるのではないでしょうか。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。
２か月に１度、年６回発行予定です。
ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。ＹＡコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記
～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは「スポーツ」
学生生活と言えば部活！部活と言えばスポーツ！
青春バクハツの本が並ぶ予感。

『ランナー』 あさのあつこ／著　幻冬舎　2007年刊

スポ根小説初心者におすすめの一冊です。大好きだった走ることに恐怖を感じてしまった事実を受け止めきれず、大会で惨敗した後、逃げるように退部した長距離ランナーの碧李。母親の暴力から妹を守るために辞めたのだと自分に言い聞かせ、長距離走から目をそらし続けていたけれど…。母妹を背負い再びランナーになるまでの物語です。

F/アサ

P.N.　まぁ坊（高校2年生）

新着図書 Pick Up

『やらかした時にどうするか』

畑村洋太郎／著　2022年刊　筑摩書房

141.5/22

失敗して痛い目を見るのが嫌。このように失敗をネガティブなものとしてとらえている人は少なくないでしょう。この本は、そうした考え方を180度転換させます。いくら注意しても失敗は起こり得るもの。だからこそ失敗したときどうするか、「失敗学」が重要なのです。この本にある、事例を交えた説明を読んでいけば、失敗って実はチャンスなのかもと思えてきます。失敗学を身につけ、やりたいことをやって人生を楽しいものにしましょう。
失敗、恐るるに足らず！

「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

『病気の魔女と薬の魔女』 岡田晴恵／著　学研　2008年刊

見習いの薬の魔女・ローズは人間に交じって暮らしています。薬の魔女に対するは病気の魔女。天然痘・コレラといった伝染病は病気の魔女の仕業。では病気の魔女は悪役？どうかな？この物語は伝染病がどんなふうに生まれ、広がっていくのかを魔女たちの世界にたとえてわかりやすく教えてくれる医学ファンタジー。出版は2008年ですが、すでにコロナの魔女が力の弱い魔女として登場しています。まさか十数年後に「新型コロナウイルス」としてやってくるとは…！なんだか予言チック。

F/オカ

難しいと思われているけれど、実は面白い名作があるから読んでみてほしいんです。

「日本文化私観」『堕落論』所収

坂口安吾／著　松尾清貴／現代語訳　2015年刊　理論社

のっけから意気軒昂です。ドイツの建築家ブルーノ・タウトが書いた『日本文化私観』（同じタイトルまでつけて！）に反論をぶつけるようにこのエッセイは始まります。
日本の伝統文化が失われていると嘆く意見を「そんなわけあるか」という勢いでぶったぎります。そして、では伝統とは何か、美しさとはどこにあるのか。坂口安吾は、おためごかしの言葉ではなくて、自分の中にある本当のものを見つけなければならないと主張します。反論をぶつけるだけでなく、自分の中の芸術を、美を追求しようとする、彼のストイックな美意識が率直に語られています。

E/サカ